

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は2020年度日本陸上競技連盟規則・競技会における広告及び展示物に関する規程、WA規則第143条TR5：シューズに関するルール再改訂部分及び本大会の申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習はプログラム記載の指定された会場で、使用日程に従って実施すること。
10月22日(木) 13:00～16:30は本競技場を練習会場として開放する。
- (2) 練習は役員の指示に従って実施すること。
特に投てき練習については、監督の付き添いのもと、危険防止に努めること。
- (3) 練習会場の入退場時は、必ずADカードを明示すること。
- (4) 本競技場、サブトラックでのチューブやメディシンボール、ミニハードル、ラダー等の用具を使用する練習は全面禁止する。なお、指定された場所でのメディシンボールの使用は許可する。
- (5) 本競技場の練習について
 - ①トラック種目及び走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳は使用可とする。投てき種目については練習内容を限定して許可する。詳しくは練習会場使用日程及び練習会場での注意事項を確認すること。
 - ②10月23日(金)～10月25日(日) 7:00～8:20まで本競技場を開放する。
詳しくは練習会場使用日程で確認すること。
 - ③レーンの使用は次の通りとする。尚、逆走は禁止する。

(レーン)	(種目)
1・2レーン	周回レーン
3～8レーン	短距離・ハードル(7・8レーン:400mH 4台)
ホーム3～8レーン	短距離・ハードル(5・6レーン:100mH 5台 7・8レーン:110mH 5台)

- (6) サブトラックの練習について
 - ①レーンの使用は次の通りとする。尚、逆走は禁止する。

(レーン)	(種目)
1・2レーン	周回レーン
3～8レーン	短距離・ハードル(7・8レーン:400mH 4台)
ホーム3～8レーン	短距離・ハードル(5・6レーン:100mH 5台 7・8レーン:110mH 5台)

- (7) 投てき練習場の練習について
 - ①円盤投、ハンマー投については、投てき練習場で行う。
 - ②砲丸投、やり投についてはサブトラックで行う。
 - ③練習時間については、指定された種目と時間に従って行う。
- (8) 棒高跳の練習について
 - ①サブトラックにも準備するが、前日、当日とも本競技場でも練習を行うことができる。
 - ②時間について
 - 10月23日(金) 高校女子 7:00～8:20
 - U20女子 高校女子終了後～12:50
 - 10月24日(土) 高校男子 7:00～8:20
 - U20男子 高校男子終了後～12:50
- (9) 投てき用具などの練習用具は準備しないので、各自持参すること。

3 招集について

- (1) 招集所は、西ゲート（100m スタート）外側、サブトラックへの通路付近に設ける。
- (2) 種目別の招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載している。
- (3) 招集の方法については、次の通りである。
 - ① 招集開始時刻に招集所で競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス・競技用靴のスパイクピンおよび靴底の厚さ・競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ類の商標の点検を受ける。トラック競技のみ腰ナンバー標識（2枚）を受け取る。
 - ② 携帯電話等、競技規則 144 条 3 (b) に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
 - ③ 競技者の衣類、物品を含む広告物については『競技会における広告および展示物に関する規程』が厳格に適用される。
 - ④ 代理人による点呼は認めない。2 種目に同時に出場する競技者は、先に出場する種目の招集時にあらかじめその旨を本人もしくは代理人が、T I C に用意している「2 種目同時出場届」に記入し、招集所（競技者係）へ提出し指示に従う。
 - ⑤ 各種目を棄権する場合は、招集完了時刻 30 分前までに所定の「欠場届」を招集所（競技者係）に提出すること。
 - ⑥ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとする。

4 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、主催者が用意したものを、そのままの大きさを胸・背部に固定すること。ただし、跳躍種目の競技者については、どちらか一方でよい。【競技規則第 143 条 7・8】
- (2) トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識（2枚）を指定された場所に貼り付けること。
- (3) アスリートビブスと A D カード、プログラムの配布は、次のとおりの場所・時間帯に行う。

22 日（木）3 階コンコース	11：00～16：00
23 日（金）T I C・総合案内	6：45～17：00
24 日（土）T I C・総合案内	6：45～17：00
25 日（日）T I C・総合案内	6：45～12：00

A D カードは、参加者 1 名につき、2 枚まで配布する（競技者以外は事前申請が必要）。A D カード規制のある場所では必ず着用すること。
- (4) 3000m・5000m・5000mW は、胸背部に別アスリートビブスを使用するので、競技開始 1 時間前までに、招集所（競技者係）へ別アスリートビブスを受け取りに行くこと。その際、正規の物を持参すること。

5 競技場への入退場について

- (1) 招集所から競技者係の誘導により競技場に入場する。
- (2) 競技終了後は、競技役員の指示に従いミックスゾーンでインタビューを受け退場する。
- (3) 8 位までの入賞者は、競技役員により入賞者控所に誘導される。そこで待機し、競技役員の指示により行動する。表彰終了後は、競技役員の指示により退場する。
- (4) トラック競技出場者の衣類は、フィニッシュ地点付近に搬送する。

6 番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の番号順とする。
- (2) トラック競技決勝の組み合わせ及びレーン順は、日本陸連公式 W E B サイトへ掲示する。
- (3) トラック競技における次ラウンド進出者のプラスについて、0.01 秒単位で同記録があった場合、0.001 秒単位で判定をして進出者を決める。タイム差がない場合は抽選とする。
- (4) 抽選が必要な場合は、当該競技者にアナウンスにより連絡し、大会本部において当該競技者あるいは代理人による抽選を行う。尚、アナウンス後 20 分を経過しても該当競技者あるいは代理人が来なかったときは、主催者が代行する。

7 競技について

(1) トラック競技について

- ① トラック競技の計時は、全て写真判定装置を使用する。
- ② レーンで行うトラック競技においては、欠場者のレーンは空ける。
- ③ 短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ④ 混成競技を除いて不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
混成競技のトラック種目においては各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者はすべて失格とする。【競技規則 162 条 6・7・8】
400m までの競走では判定の補助として S I S（スタート・インフォメーション・システム）を使用する。
- ⑤ 男子 5 0 0 0 m、女子 3 0 0 0 m、男女 5 0 0 0 m 競歩はグループスタートで実施する。
- ⑥ 高校陸上の種目によって A・B 決勝を行う。A 決勝は決勝進出 8 名で行う。
B 決勝は予選で決勝進出者を除いたタイム上位 8 名とする。

(2) フィールド競技について

- ① 走高跳を除くフィールド競技の計測は、全て光波距離計測器を使用する。
- ② 走高跳を除く跳躍種目、やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が準備したもの、または承認したマーカーを 2 個まで使用できる。サークルから行う投てき競技は、マーカーを 1 個だけ使用することができる。走高跳の競技者は、各自でマーカー（粘着テープ、2 カ所まで）を助走路内に用意することができる。
- ③ 棒高跳の競技者は、「棒高跳支柱移動届」を T I C で受け取り、自分の希望する支柱の位置を記入し、招集開始時に招集所（競技者係）に提出する。
その後、位置を変更したい場合は、棒高跳審判員に申し出る。
- ④ 三段跳の踏切板は、砂場から男子は 1 3 m、女子は 1 0 m の位置に設置する。
- ⑤ 走幅跳、三段跳で A・B ピットに分かれて行う場合は、終了まで A・B ピットに分かれて競技を行う。
- ⑥ 競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- ⑦ フィールド競技が行われる近接のスタンドに「コーチングエリア」を設ける。競技者への助言はこのエリアから行うことができる。競技者にビデオ等の映像を見せて助言することは差し支えないが、吊り下げや手渡し、該当競技エリアから離脱するような行為、文書をもって連絡することは認めない。
- ⑧ 試技数

【U20 及び高校の部】

走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投は、全ての競技者に 2 回の試技が与えられる。試技 2 回終了時点の上位 8 名には、さらに 2 回の試技が与えられる。
走高跳・棒高跳は、連続する 2 回の無効試技で、競技終了とする。

【高校の部】

男子八種競技：走幅跳、砲丸投、やり投は、2 回の試技が与えられる。
走高跳は、連続する 2 回の無効試技でその種目の競技を終了とする。
女子七種競技：走幅跳、砲丸投、やり投は、2 回の試技が与えられる。
走高跳は、連続する 2 回の無効試技でその種目の競技を終了とする。

- (3) 競技者は、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で所持または使用することはできない。また、勝手に競技場所を離れることはできない。【競技規則 144 条 3(b)・4】
- (4) 競技者としてあるまじき行為をした競技者には、警告が与えられ、場合によっては競技から除外される。警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らされる。
- (5) 投てき種目について
競技前に行う公式練習は、基本的には一人 2 回行う。

(6) 混成競技について

- ① 混成競技者控室は設置しない。
- ② 男女とも、最終種目において別アスリートビブスは配布しない。
- ③ 各種目の招集は、招集所にて行う。

8 走高跳・棒高跳について

(1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。ただし、天候などの状況により変更することがある。

種目	種別	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
男子 走高跳	U20	1m90 2m05	1m95	2m00	2m04	2m08	2m11	2m14	2m17	2m19	以降2cmずつ上げる
	高校	1m85 2m00	1m90	1m95	1m99	2m02	2m05	2m08	2m10	以降2cmずつ上げる	
女子 走高跳	U20	1m55 1m70	1m60	1m65	1m69	1m73	1m76	1m78	以降2cmずつ上げる		
	高校	1m50 1m65	1m55	1m60	1m64	1m68	1m71	1m74	1m77	1m79	以降2cmずつ上げる
男子 棒高跳	U20	4m70 5m00	4m80	4m90	5m00	5m05	5m10	5m15	以降5cmずつ上げる		
	高校	4m50 4m90	4m60	4m70	4m80	4m85	以降5cmずつ上げる				
女子 棒高跳	U20	3m40 3m70	3m50	3m60	3m70	3m80	3m90	以降5cmずつ上げる			
	高校	3m20 3m50	3m30	3m50	3m60	3m70	3m80	3m85	以降5cmずつ上げる		
混成 競技	高校 八種	1m40 1m60 1m75	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	以降3cmずつ上げる
	高校 七種	1m25 1m35 1m50	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以降3cmずつ上げる		

※残っている競技者が2人以上でも、全員の同意があれば、日本記録もしくは大会記録などを超える高さにバーを上げることができる。

(2) 公式練習について

棒高跳は自分の選択した高さ及びアップライトの位置（公式練習の説明後、担当競技役員に申告する）で、走高跳は自分の選択した高さでそれぞれ2回行う。棒高跳はゴムバーを使用し、高さは正規の高さに設定して行う。走高跳は正規のバーを使用する。

9 競技用具について

- (1) 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。なお、投てき用具の持ち込みは、競技場内に無い、若しくは1つしか無いモデルの場合にのみ、検査を受けて合格したものは許可する。（別紙投てき用具一覧表を確認）
- (2) 投てき用具の持ち込みを希望する者は、当日競技開始90分前から60分前までに、「投てき器具検査申請書」を添えて西ゲート（100mスタート側）横の用器具庫に申し出ること。「投てき器具検査申請書」はTIC（総合案内）に用意する。
- (3) 検査に合格した用具は「預かり証」を渡し、一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。競技終了後に用器具庫で「預かり証」と引き換えに返却する。

- (4) ハードルの高さは次の通りとする。

	U20男子	高校男子	U20女子	高校女子
110mH	0.991m	0.991m		
100mH			0.838m	0.838m
400mH	0.914m	0.914m	0.762m	0.762m

- (5) 投てきの重量は、次の通りとする。

	U20男子	高校男子	U20女子	高校女子
砲丸	6.000kg	6.000kg	4.000kg	4.000kg
円盤	1.750kg	1.750kg	1.000kg	1.000kg
ハンマー	6.000kg	6.000kg	4.000kg	4.000kg
やり	800g	800g	600g	600g

10 競技用靴について

- (1) スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とする。また、スパイクの先端近くで長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。【競技規則143条3・4・5】
- (2) 競技用シューズについては2020年7月28日から有効となったWAシューズ規程を適用する。靴底の厚さは、800m未満のトラック種目（含むハードル）は20mm以内。800m以上のトラック種目は25mm以内。競歩種目ではロード種目と同様とする。ただし、フィールド種目は移行期間のため適用しない。

11 結果発表と抗議について

- (1) 各種目の結果発表は、大型映像装置及びアナウンスで行う。掲示板による発表は行わない。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則146条によって定められて時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合には、アナウンス後15分、それ以外は30分）に、競技者もしくは代理人がTIC（総合案内）を通じて審判長に対して口頭で行い、審判長からの裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金（1万円）を添え、TICを通じて Jury に「抗議申立書」で申し出る。「抗議申立書」はTICに用意する。

12 表彰について

- (1) 各種目の第1・2・3位には賞状とメダル、第4位から8位には賞状を授与する。
- (2) 各種目の8位までの入賞者は正面スタンド前で表彰式を行う。
- (3) 優秀競技者（男女各1名）にJOCジュニアオリンピックカップを授与する。
- (4) 表彰はA決勝出場者のみ行う。

13 ドーピングコントロールテストについて

- (1) ドーピングコントロール
ワールドアスレティックスアンチ・ドーピング規則及び規定、もしくは日本アンチ・ドーピング規定に基づいて行われる。尚、本大会の前もしくは後のドーピング検査では、尿又は血液（或いは両方）の採取が行われる。該当者は指示に従って検査を受けること。尚、競技会時、ドーピング検査の対象になった場合、顔写真付きの身分証明書が必要となる。顔写真のついた学生証、社員証、運転免許証、顔写真が鮮明なパスポートコピーなどを持参すること。
- (2) TUE申請
禁止表国際基準で定められている禁止物資、禁止方法を病気の治療目的で使わざる得ない競技者は「治療使用特例（TUE）」の申請を行わなければならない。詳細については、日本陸上競技連盟医事委員会のホームページ（<http://www.jaaf.or.jp/medical/index.html>）、又は日本アンチドーピング機構ホームページ（<http://www.playtruejapan.org/>）を確認すること。

- (3) 18歳未満競技者の競技者からのドーピング検査に対する同意書の取得
世界アンチ・ドーピング規定、同国際基準、及び日本アンチ・ドーピング規定により、18歳未満の競技者が競技会に参加する際、親権者からドーピング検査に関する同意書を取得することが必要となる。
- ① 本大会に参加する18歳未満の競技者は、同意書を熟読し、署名、捺印の上、同意書の原本を大会に持参し、携帯すること。同意書は本陸連ホームページ (<http://www.jaaf.or.jp/pdf/doi sho.pdf>) からダウンロードできる。
 - ② 18歳未満の競技者はドーピング検査に指名された時に、原本をドーピング検査室にてNFR（陸連医事代表）に提出すること。提出は1回のみで、同意書の提出後に再びドーピング検査に指名された場合は、すでに原本を提出済みである事をNFRに申し出ること。会場において、原本の提出がなくとも、検査は行われるが、検査終了後7日以内に日本陸連事務局に原本を提出すること。

14 その他

- (1) 応急処置その他健康上の問題が生じた場合は、本部に連絡して処置を受ける。医務室は中央ホール左側に設置されている。
- (2) 公園内の公道上に各団体のテントを設営することは禁止する。
- (3) 会場内（メイン競技場、サブトラック、投てき練習場）への入場はADカードを明示する。
- (4) 更衣室は、メインスタンド下に用意している。尚、更衣室は更衣のみに使用する。更衣後の荷物は各自で管理する。
- (5) 大会期間中の貴重品の管理は各自で行う。盗難にあってもその責任は負わない。
- (6) バックスタンド下のスペース（雨天の場合にランニング程度の運動は可能）の横断は禁止する。また、ADカードを携帯した競技者・関係者以外は立ち入ることはできない。
- (7) 「記録証明書」を希望する競技者は、該当競技終了後30分以内にTICまで「記録証明書申込用紙」に必要事項を記入し、500円を添えて申し込むこと。後日送付する。（当日の発行はしない。）
- (8) 送付された棒高跳ポールは、メインスタンド下の通常の雨天練習場で保管している。今大会では「競技役員控室」として使用するため雨天練習場としては使用できないが、ポールは保管してあるので、各自で確認すること。
- (9) 棒高跳競技終了後、日本陸連HPのポール輸送システムを利用している場合、ポールを各自で競技場所からTIC（総合案内）まで運ぶこと。手続きをするとともに、配送料を支払うこと。

TIC（総合案内）に用意されている各種用紙

	提出書類	用紙提出場所	提出時間
1	欠場届	招集所	招集完了時刻30分前まで
2	2種目同時出場届	招集所	先に出場する種目の招集時
3	棒高跳支柱移動届	招集所	招集開始時刻
4	記録証明書申込用紙	TIC	
5	抗議申立書	TIC	競技規則で定められた時間
6	投てき器具検査申請書（預かり証）	用器具庫	競技開始時刻60分前